

附属釧路中 平和宣言

今回、長崎の地を訪れるにあたり原爆について学びました。ここに居る私たちは、歴史の中で学んだ「原爆」という文字からは想像もできなかった、悲しい事実があったことを知りました。

そして、長崎・広島の願う平和はまだ遠いところにあるのだということ。戦後67年がたった今でも、原爆によって命を落としている人がいるということ。原子爆弾が、街とそこに生きていたものたちを一瞬にして奪っていったことを・・・。

そこには言葉では伝えきれない、何十万人という人、一人ひとりの人生があったことでしょう。それと思うと苦しくなります。人の命を命と思わない戦争や原子爆弾の投下が、何を生んだのでしょうか？人々に悲しみ、憎しみだけを残し、傷つけました。これは許される事ではありません。

人々を苦しめる戦争がどうして未だにあるのか？現在この地球上に存在している核兵器、なぜ持つ必要があるのか？なぜ作るのか？誰が喜ぶのか？非人道的なものがこの世に存在する意味は？これが私たちの率直な意見です。

私たちは過去に起きた事実を知り、学ぶべきであると思いました。

地球上にある1万9千発の核兵器を減らしていくことが、今の私たちの世代にできることだと思います。世界各国のリーダーのみなさん、NWC（Nuclear Weapons Convention 核兵器禁止条約）の早期確立を願います。私たち人間は、普通の人生を送りたいと思っています。決して戦争や原子爆弾で人生を終えたくはありません。国々が共存し、平和な暮らしが当たり前である世界を作る必要があります。

「長崎と広島が最後でなければならない。」そんな想いを持つ長崎のみなさんは、福島の原子力発電所の事故に心を痛めていることでしょう。三度も放射線の被害をうけた日本は、世界に向けて発信できることがたくさんあります。 私たちにとって一番大切なものは何でしょうか。

私たちにできることは、たくさんあると考えます。

人間が人として生きていくために努力しなければならないこと。

私たちは、様々な人々と協力して生きていきます。人々が反発しあう中で起きた戦争が、ここ長崎に原爆を落としました。平和は、「人々の協力、つながりを大切にする、相手を理解する」それだけのことで保つことができるはず。そして、世界を知り、様々な人々が活着ていることを学んでいきます。そうした上で、私たちに必要なのは「何が正義なのかを考え、正しい心を持つ」ことだと思います。

私たちは、原爆の事実を長崎・広島だけが強く訴えるのではなく、日本として発信すべきであると考えます。「長崎・広島あの時の景色を二度と作らないようにする」このことをこれからの未来を築く私たちが責任を持って考えていきます。

もう二度と悲劇は繰り返しません。

平成24年11月30日

北海道教育大学附属釧路中学校 第43期生